

中高・高大・広域の連携による地域社会を 先導する人材育成プロジェクト「曾於学」

～曾於地区における創造的人材の育成を目指して～

曾於高等学校

概要

本校では総合的な探究の時間を「曾於学」と称し、生徒が自分らしさを探究し、予測不可能な未来でも自分の個性を生かして活躍できる能力を持った、地元の発展に貢献できる人材を育成することを目的として授業を行っています。

また、首都圏大学との高大接続、県外の高校との広域高高連携、地元中学校との中高連携を実施

し、地域や学校の課題解決に繋げることも狙いとしています。本稿では、その取組についてご紹介します。

曾於学に取り組む経緯・課題

本校は、地域の過疎化に伴い財部高校・末吉高校・岩川高校の3校が平成26年に統合し生まれた学校で、文理科・普通科・機械電子科・商業科・畜産食農科の5学科があります。

その中で、文理科と普通科では大学に進学して知識と教養を深め、やがて地域のリーダーになるような人材の育成が求められており、それをどのように推進していくか模索していました。そこで「曾於学」の授業で、首都圏大学との高大接続、地元中学校との中高連携、県外の高校との広域高高連携を3つの柱として、魅力あふれる地域を創造でき、探究的な学びを継続する生徒の育成を目指そうと考えました。

①首都圏大学との高大接続

慶應義塾大学の学生に毎週オンラインでメンターをしてもらいながら探究活動を行っています。

1学期は自己理解を深めながら、自己表現のスキルを学び、2学期からは関心のあるテーマについて個人探究活動を進めま

した。大学生のメンターは生徒から好評で、「私たちの抽象的な言葉を違う視点から広げて

いってもらえる。その洞察力に圧倒される。」と生徒は感じています。



本校にて大学生と生徒が個人探究活動に向けて意見を交わす様子

また大学生が本校を訪れたり、生徒が大学の研究活動成果発表会に参加したりしました。自身の研究等について発表してもらい、それが生徒にとって大きな刺激と憧れとなり、個人探究活動のテーマに世界的なものを選んだり、海外留学を志望したりするなど、視野を外部に大きく広げた生徒が増えました。

②地元中学校との中高連携

中間発表では、地元中学校に赴き、自己の変容を客観的に捉えた発表を行いました。個性を存分に生かしながら自己変容の過程を発表する本校生の姿を見て、中学生に曾於高校での学びへの高い関心を持ってもらうことができました。

最終成果発表では、中学校とオンラインで繋ぎ、発表を行いました。中学生は自己を生き生きと表現する本校生に憧れ、本校を志望してくれ

③県外の高校との広域高高連携

隣接する宮崎県立都城西高校の総合的な探究の時間の研究成果発表会に福山高校と参加し、地域課題の発見、課題を取り巻く状況等の情報収集、課題改善のための具体的な取組、取組に対する結果と考察の発表を聞きました。生徒は最終成果発表のイメージをもつことができ、更に自身の研究内容に生かすことができ

曾於学の成果

三菱UFJリサーチ&コンサルティングが企画しているアンケートを利用し、生徒に曾於学につ

いての調査を、4月と3月の2回実施しました。その項目で、「自主的に調べ物や取材を行う」、「日本や世界の課題の解決方法について考える」、「住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい」が3割増加していました。曾於学の目的達成に大きく近づくことができたと考えています。

また各種大会においても、高校生国際シンポジウムで、多数の応募の中からスライド発表者に本校生徒が選ばれました。また、鹿児島県高校生探究コンテストで特別賞九州高等学校生徒理科研究発表大会で最優秀賞

（全国大会出場）、SDG S みらい甲子園鹿児島大会で最優秀賞（全国大会出場）を受賞することができました。

今後の展望

曾於学は、30年後の地域社会を変革する人材を育てるだけでなく、地域社会から愛され、地域を愛する人材が生まれ、共創しながら社会を創り上げることができると考えています。今年度は、2年生（先輩）が1年生（後輩）に指導や助言を行う教



慶應義塾大学の研究成果発表会に参加

育活動が展開できるよう工夫しています。学校全体で生徒のサポートを行い、このシステムを本校の伝統としていきたいと思っています。

（教諭 今村 太郎）